

# 実感につなげよう！ 今、求められる授業改善 Ver.2

学校の授業改善の取組は、生徒や学校の実態により、それぞれ特徴をいかして進められています。

授業改善のテーマについての理解を深めるために、他の教職員の考えも知りたいです。



→ **研究テーマの設定へ**

授業改善の取組をよりよくするために、協議を更に充実したものにしたいです。



→ **研究授業に係る取組へ**

研究協議で得たことや、授業で実践したことを、他の教職員と共有する方法を知りたいです。



→ **日常の授業への成果の活用へ**

これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、能動的に学び続けることができるようにするには、これまでの学校教育の蓄積をいかながら、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要です。

授業改善を通して「生徒に目指す資質・能力を身に付けさせることができた」と教職員が実感できる、学校の実態に即した組織的な取組が、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進します。

どのような取組が実感につながるのでしょうか？



# 組織的な授業改善の取組

授業改善の取組については、次のように示されています。

生徒に求められる資質・能力を育むために、生徒や学校の実態，指導に応じ、「主体的な学び」，「対話的な学び」，「深い学び」の視点から授業改善を図ることが重要である。

文部科学省 2017 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説総則編』

学校現場では、それぞれの授業において、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が進められています。この授業改善の取組を、組織的かつ計画的に行うことが、各学校の教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの促進につながります。

## 研究テーマの設定を見直し、共通理解を図りましょう。

- ・ 研究テーマは学校の実態に即していますか？
- ・ 研究テーマに即した具体的な授業をイメージすることが難しいと感じていませんか？

## 研究授業に係る取組を組織的に行いましょう。

- ・ 授業づくりのポイントは教職員間で共有できていますか？
- ・ 協議の内容に一貫性はありますか？

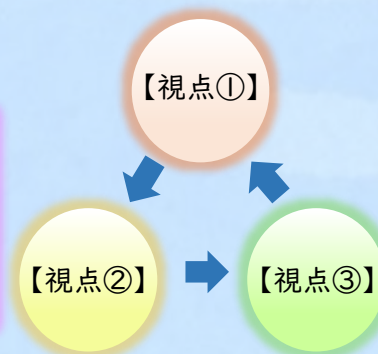
## 日常の授業への成果の活用を目指しましょう。

- ・ 気づきや改善点を日常の授業で活用していますか？
- ・ 活用した成果について、教職員間で共有していますか？

# 実感につながる三つの視点

授業改善に係る組織的な取組において、何が実感につながるのでしょうか。皆さんの学校の取組を、次の三つの視点から見つめ直し、自身や学校全体の取組について考えてみてはいかがでしょうか。

それぞれの視点のポイントは次のとおりです。



取組の見直しは三つの視点で行うと効果的です。学校の実態に合わせて部分的・段階的に取り入れていきましょう。

## 【視点①】 研究テーマの設定

- ・学校の実態に即した目標を共有した上で、研究テーマを設定する。
- ・その目標を基に、教職員一人ひとりが具体的な目標を設定する。

詳細は  
P.4へ

## 【視点②】 研究授業に係る取組

- ・授業づくりのポイントを教職員間で共有する。
- ・研究授業に係る一連の取組について一貫性を確保する。

詳細は  
P.5へ

## 【視点③】 日常の授業への成果の活用

- ・研究授業から得た成果を日常の授業で活用する。
- ・実践した結果を共有する機会を学校全体で計画的に設定する。

詳細は  
P.6へ



## 【視点①】研究テーマの設定

学校の実態に即した授業改善に係る研究テーマが、教職員間で共通理解されていますか。また、教職員一人ひとりの具体的な目標の設定につながっていますか。

### 教職員の声

(茅ヶ崎北陵高等学校)  
(茅ヶ崎市立北陽中学校)

「各先生が困っていることや改善したいポイントをヒアリングしてもよい」



「生徒の実態を踏まえた研究にしていくのがよい」



「日頃から『育てるべき生徒像』について話し合い、具体的なイメージを共有する」



### 調査研究協力校

- ・茅ヶ崎北陵高等学校
- ・愛川高等学校
- ・茅ヶ崎市立北陽中学校
- ・愛川町立愛川中原中学校

### 研究テーマの決定

学校や生徒の実態をつかみましょう！

- 日常の学習への生徒の取組状況などから、学校の実態と課題を明らかにした上で、目指す生徒像を設定し、教職員全員で共有する。
- 研究テーマを決める際には教職員から意見を募るなど、教職員のニーズに合ったものにする。
- 授業づくりに対して具体的なイメージを持つために、研究テーマは具体的で分かりやすい言葉で表現する。

### 研究テーマの共有

教職員全体で共有しましょう！

- 校内（職員室、廊下等）に掲示したり、学習指導案のひな型や職員会議の資料に記載したりするなど「視覚化」する。
- 職員会議や研究会議※の場で繰り返し確認して、研究テーマに対する教職員の意識を高める。

※授業研究のための会議

今年度 授業研究会テーマ

自ら考え、判断し、表現する力を養う教科指導

～わかる！できる！安心感のある授業づくり～

研究テーマを職員室に掲示(愛川高等学校)

研究テーマを踏まえた授業づくりを目指そう！



### コラム

研究テーマの用語に対する具体的なイメージを共有することが大切です。抽象的な言葉は個々での捉え方に違いが生じることも考えられます。例えば、「主体的に学ぶ姿」から、どのように学んでいる生徒の姿を思い描くか、共通理解を図る必要があります。これによって、具体的な授業づくりのイメージができます。

## 【視点②】 研究授業に係る取組

研究授業に係る取組において、研究テーマに即した授業づくりのポイントの一貫性が確保されていますか。

### 指導案検討

様々な視点から授業づくりを行いましょう！

- 教科や、教科を越えたグループでの指導案検討を行う。
- 指導案検討における議論の視点を明確にする。

教科での授業検討を深めることももちろん大切です。  
教科を越えた取組は、更に新たなアイデアを取り入れることができます。



### 研究授業

授業者の考えるねらいや、授業を見るポイントを共有しましょう！

- 授業の流れや、工夫した点、生徒の変容などを記録するための授業記録シートを活用する。
- 授業を見るポイントを明確にするために、研究テーマや指導案検討で重視したことを授業記録シートに明記しておく。

### 研究協議

話し合いを進めやすい場の設定をしましょう！

- 協議を進める際は、授業を見るポイントにしたがって振り返り、一貫した視点での話し合いを行う。
- 個人での振り返り、グループでの共有、全体での共有の順で行い、振り返りを深める。



### 取組の工夫

〈しかけ検討会〉

茅ヶ崎市立北陽中学校では、指導案検討会の前に「しかけ（授業者が意図的に授業に組み込んだ発問や活動）」について検討しています。

〈校内研究会資料〉

愛川町立愛川中原中学校では、充実した校内研究会の資料を用いて、取組を推進しています。項目は次のとおりです。

- 日々の授業・良い授業をつくるために
- 校内研究会の進め方
- 生徒インタビューについて
- 授業の記録
- 生徒インタビュー記録
- 研究協議シート

## コラム

授業の振り返りの際に、生徒の声を聴く「生徒インタビュー」を取り入れてみましょう。生徒も自分の変容に気付くことができ、教職員も生徒の変容を実感することができます。



## 【視点③】 日常の授業への成果の活用

授業改善に係る取組やその振り返りの成果を学校全体で共有し、日常の授業に活用していますか。

### 取組の紹介

#### <リフレクションシート>

愛川高等学校では、研究授業、研究協議を基に、自分の実践を振り返り、学んだことやいかしたいことなどを書き、職員室に掲示することで共有を図っています。

#### 校内研究 リフレクションシート

氏名 ( )

授業や協議を基に、自分の実践を振り返り、自分が学んだことや自分の授業に活かすこと、明日から実践してみることなどを自由記述します。


(職員室に掲示して共有したいと思います。)

記入・印刷して、ご活用ください。

### 研究協議の共有

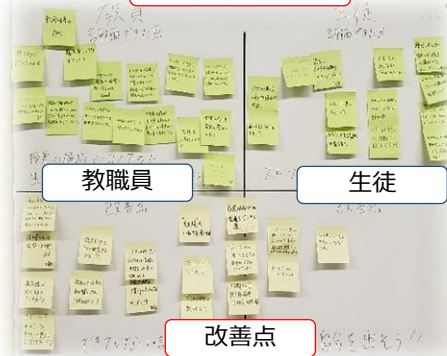
協議の内容を教職員全体で共有しましょう！

- 協議で話し合ったことを、模造紙などにまとめて共有する。
- グループごとに発表したり、協議内容を掲示したりするなどの工夫をする。

「効果があった点」や「改善点」などが明記されていると、次の授業を行うための参考になります。



効果があった点



教職員

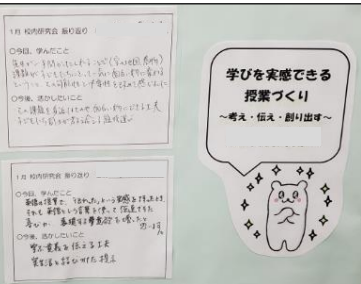
生徒

改善点

研究協議後の模造紙  
(愛川高等学校)

#### <印刷室に掲示して共有>

茅ヶ崎市立北陽中学校では、研究協議の振り返りや日々の授業で工夫した点を書き、印刷室に掲示して共有を図っています。



### 実践の共有

日常の授業の実践も、教科や学年で共有しましょう！

- 自分が授業づくりで工夫したことや、苦勞したことなどについて情報交換する。
- 日々の業務の中で、共有の時間が取れなければ、職員室や印刷室など、自然と目に入るところに掲示する。
- 作成した教材やワークシートなどを共有して、日常の授業にいかす。

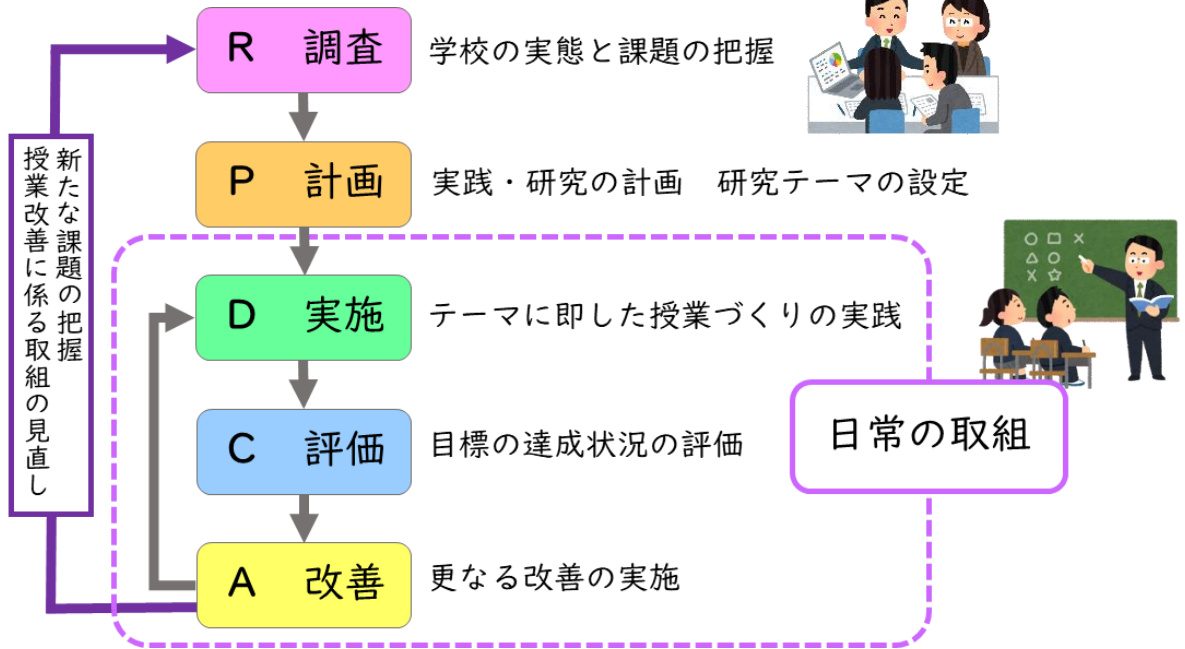
### コラム

実践の共有を円滑にするために、日頃からお互いに授業を見合う雰囲気を作りましょう。教科の専門性を高めるために、同じ教科の授業を見ることも大切ですが、他教科の授業を見ることも、授業づくりの新たな発見につながります。また、カリキュラム・マネジメントの視点からも、教科等横断的な取組が求められます。

# 授業改善の取組を推進するために

RPDCAのマネジメントサイクルで組織的に取組を見直しましょう。

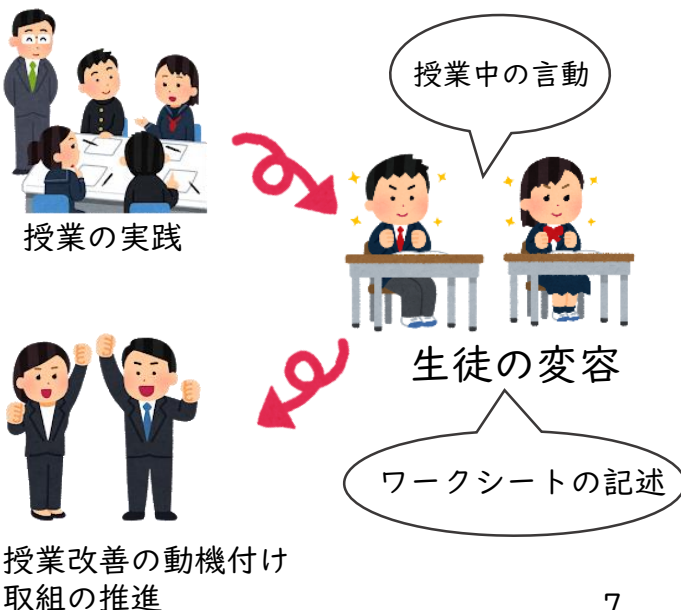
RPDCAサイクルで見直し、新たな課題を把握することが、取組を継続・発展させることにつながります。



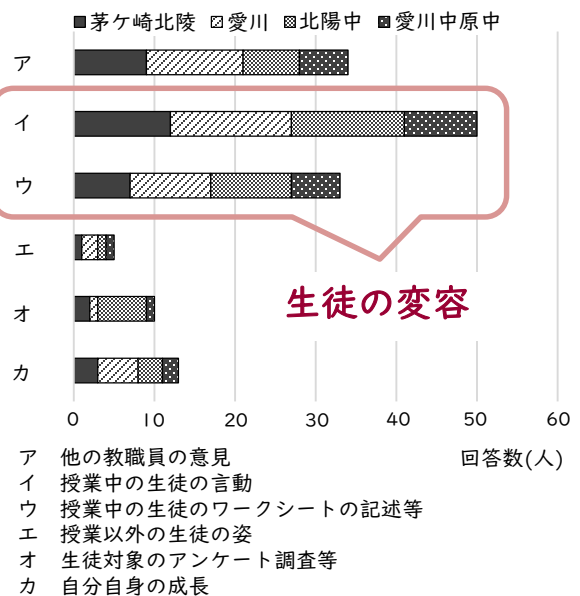
# 授業改善の実感とは

授業を通して、生徒に身に付けさせたい資質・能力を育成できたかどうかを確認しましょう。

生徒の変容を実感することが、授業改善の動機付けとなり、更に取組を推進することにつながります。



自分の授業を改善することができたかどうかを何で判断しましたか、次から全て選んでください



# Q&A

**Q** 研究テーマは毎年変える必要がありますか？

**A** 継続して取り組みながら、必要に応じて見直しもしましょう。

学校の実態は、生徒や地域の様子の変化に伴って、徐々に変化するものです。また、一つの研究テーマで目指す生徒像が実現されると、次に目指す生徒像が見えてきます。このように、「その時の学校がどのような生徒を育てたいか」など、目的に合わせて研究テーマを見直すことも必要です。

**Q** 指導案検討会ではどのようなことを話し合うのですか？

**A** 身に付けさせたい資質・能力と、その育成に向けた方法を中心に検討しましょう。

「身に付けさせたい資質・能力」が明確に示されているか、その単元の学習の成果として適切か、を中心に検討します。また、授業展開（内容、方法）が、「身に付けさせたい資質・能力」を育成するために適切かどうかを検討します。この時に、他教科の教職員も加わることで、新たなアプローチの方法を見いだすことにつながります。

**Q** 授業で目指すものを生徒に伝えるにはどうしたらよいですか？

**A** 授業キャッチフレーズ（授業づくりキーワード）を提示しましょう。

授業で「何を指すか」、「何を大切にするのか」を端的に表した「授業キャッチフレーズ」を作成しましょう。授業の際には、掲示するなど視覚化することで、常に意識することができます。また、「授業キャッチフレーズ」とその趣旨をまとめた資料を生徒や保護者に配付することで、学校全体で授業づくりに取り組むことにつながります。

**Q** 研究授業後の生徒インタビューはどのようなことを聞くのですか？

**A** 生徒の変容を捉えるために、「授業によってどのように変容したか」を中心に質問しましょう。

授業を通した生徒の変容が分かるような質問をすると効果的です。これによって、生徒自身も「自分がどのように学習に取り組んでいるか」を振り返ることができます。また、教職員にとっては、生徒から直接話を聞くことで、授業のねらいが達成されたか、身に付けさせたい資質・能力を育成できたかを確認することができます。

## 組織的な授業改善の推進に向けて

各学校が目指す「主体的・対話的で深い学び」とは何かを具体的にして学校全体で共有する。

→ 教職員一人ひとりが生徒の変容を実感することにより、授業改善の意欲が高まる。

→ 組織的な取組の推進へ

生徒の姿を起点に置くことが大切です！

実感につながりましょう！